

NEWSLETTER

MAY. 2026

ISSUES #13

当社の旬な話題をご紹介します

大気社ニュースレター

発行元：株式会社大気社 経営企画部
広報・サステナビリティ推進課

連絡先：mailmast@taikisha.co.jp



グローバルで活躍する力を 計画的に育てる

—10年プランと連動する
人材戦略の実践—

当社は、挑戦と成長を通じて価値創出を担う人的資本を競争力の源泉と位置づけ、「10年プラン2035」の実現に向けた人材戦略を推進しています。

その一環として2024年度に導入した「海外トレーニー制度」は、若手社員が海外拠点での学びと実践を通じて視野を広げ、対応力を高めてグローバルに活躍する力を早い段階から育てる取り組みです。本号では、制度の目的や参加者の学びを通じて、大気社が進めるグローバル人材育成の取り組みをご紹介します。



「10年プラン2035」を支える 人材戦略と育成の仕組み

長期経営計画「10年プラン2035」の実現に向けては、「多様な人材・知見を融合し、一人一人がお互いを尊重し合うグローバル企業となる」ことが重要であると認識しています。その実現に向けて、当社が重点的に取り組んでいる施策が、グローバル化対応力の強化です。日本人社員については、年齢に応じた育成ステップを通じてボーダーレスな活躍を推進していきます。また、海外拠点で働くナショナルスタッフについては優秀な人材を早期に経営幹部に選拔し、海外拠点の経営に参画させるとともに、日本および海外拠点でのグローバルな経験を通じて育成します。

こうした考えのもと、当社では2024年度に「海外トレーニー制度」を導入しました。日本人の若手社員を一定期間海外拠点に派遣し、グローバルで事業の拡大を担う人材を早い段階から育てていく取り組みです。本制度を通じて、社員の挑戦を後押しするとともに、人材や組織の活性化にもつなげていきたいと考えています。

本制度では、語学力の向上にとどまらず、現地での業務を通じて企業経営の基本を学ぶことや、異文化体験による視野の広がりやチャレンジ精神の醸成、現地のナショナルスタッフとのコミュニケーションを通じた対話力・交渉力の向上など、実践的な力を養うことを重視しています。客先訪問や会議参加、現場視察、市場分析、営業戦略の理解、契約業務、拠点長の業務サポートなど、研修内容は多岐にわたり、年代や職種に応じて柔軟に設計されています。

「ダイナミックでワクワクした経験ができました」

● 未知の市場に踏み込み、視野を広げる

「ダイナミックでワクワクした経験ができました」——。
海外トレーニー制度に参加した第2期生は、インドでの7か月間をこう振り返ります。実践的な英語力を高められただけでなく、企業経営の基本を理解するため、現地法人の経営会議などに参加し、意思決定のプロセスを学びました。また、ナショナルスタッフとも積極的に交流し、異文化への理解を深めました。加えて、拠点で進行中のプロジェクトに興味を持ち、市場調査や企業訪問にも主体的に取り組むなど、未知の課題に向き合う経験を重ねました。

こうした経験を通じて得られるのは、語学力や知識だけではありません。異なる価値観や商習慣の中で仕事を進めることで、相手を理解し、対話し、関係を築く力も培われます。言葉や文化、商習慣の違いに向き合いながら、自ら考え、周囲と連携し、行動に移していく姿勢には、この制度で育みたい力がよく表れています。

● 海外で得た学びを、組織の力へ

当社が大切にしているのは、海外で得た経験を一過性のものにならないことです。海外トレーニー制度では、事前研修、海外派遣、成果発表というプロセスを通じて、現地での学びや気づきを振り返る機会を設けています。帰任後には、海外で得た視点や実践経験をそれぞれの業務に生かすことで、個人の成長にとどまらない広がり生まれます。また、現地で築いた人脈や、異文化の中で課題に向き合った経験は、グローバルな事業展開を支える重要な基盤にもなっています。

挑戦を通じて得た経験を、個人の成長にとどめず、組織の知見として広げていくこと。それが、グローバルに活躍できる人材を育て、「10年プラン2035」を支える人的資本の強化にもつながっています。こうした積み重ねを通じて、当社はこれからも、世界で価値を生み出せる人材の育成を進めていきます。



現地スタッフとの交流を通じてインドのビジネス習慣や文化、マインドセットを深く学びました（左から2人目：第2期生）



ベトナムでは商工会議所などを訪問し、認知度向上と人脈づくりの活動を行いました（写真中央：第3期生）



帰任後、研修生による研修成果発表会を実施。出席した役員からは「この学びを次の配属先で活かし、活躍を期待したい」といったコメントがありました

海外トレーニー第1期生に聞く グローバルな現場で得た経験

—海外トレーニーを通じて、特に印象に残っていることは何ですか。

役員会議や方針会議に参加し、経営層が意思決定に至るまでのプロセスを間近で学べたことです。また、アメリカでの注力市場について自ら市場分析を行い、現地社長とディスカッションできたことも大きな経験になりました。

—その経験がどのように活かされていますか。

こうした経験を通じて視野が広がり、これまでの常識や進め方が海外ではそのまま通用するとは限らないと実感しました。現地の文化や制度、業務環境、市場への理解を深め、相手の立場や背景を意識して対応することを常に心がけています。



渡會 悠貴（写真左）

海外トレーニーを経て
現在Taikisha Deutschland GmbH
(ドイツ)に駐在中